

新たな伝承文化「釜淵行灯番楽」「八敷代番楽幕開き」

2月8日(土)に釜淵一地区公民館を会場に、第9回「釜淵行灯番楽交流会」が開催されました。来場した約70人の観客は、地元の方々や釜淵保育所の園児らが作った行灯がとる中、郷土料理を味わいながら「すなごき太郎」「三人太刀」などの釜淵番楽を鑑賞しました。

また2月9日(日)には、第9回「八敷代番楽幕開き」が八敷代番楽保存会の佐藤隆一会長宅で開催されました。地域の子どもたちが練習してきた「地神舞」や、勇壮な「武士舞」などを披露し、会場を沸かせていました。

両会場とも今年は東北文教大学の学生さんが来場し、他地域の伝承文化を披露していただき伝承文化の交流も行われました。

どちらも「番楽」という地域の宝を核に、地域に伝わる「伝統食」と融合させた取り組みにより「新たな伝承文化」として生まれたものです。また、子どもたちも積極的にかわることで後継者も育っており、地域に元気を与える盛大な行事となっています。こうした地域全体での取り組みを今後も継続し、守っていききたいものです。



鳥舞 (釜淵行灯番楽)



地神舞 (八敷代番楽幕開き)

【お問い合わせ先】教育課生涯学習・スポーツ担当 ☎62-2305

真室川町小中学校教頭会

「学び合い」を核にした小中連携

今年度より真室川町は、真室川中学校と及位中学校との統合により、小学校3校、中学校1校体制となりました。また、昨年度まで教頭会で取り組んできた小中連携教育(国語・算数数学・キャリア教育)について3年間取り組み、成果と課題をまとめることができました。

そこで今年度は、より一層、小小・小中が連携していくためのキーワードとして「学び合い」を挙げ授業改善や学力向上に取り組みました。各校の「学び合い」の授業実践により子どもたちの主体的な学びの姿を求め、義務教育9年間を見通した具体的な指導の連携を図ることとしました。

学校規模や経営課題、学校文化の全く違う4つの学校が足並みをそろえるということは、発達課題の面から見ても、研究の時間や授業づくりの面からみても、容易なことではありません



が、真中真小を会場に年3回の合同研修会を実施して、情報交換を行い教師間の同僚性をもとに、さらなる研修の深化を進めてまいりました。

今後も、小中の連携をさらに強化すると共に、保育所・たんぽぽこども園との連携も深めながら、真室川の子どもたちの「生きる力」を育み、「知識・技能」と「思考・判断・表現」のバランスに配慮し、次年度以降にも12年間を見据えたつながりのある新たな授業づくりや学力向上策を推進していきたいと考えております。